



米山月間によせて

米山記念奨学会理事

PDG 葛尾 信弘 (松江東RC)



この度、森嵩正PDG（津山RC）の後任として理事に就任することになりました。森嵩正PDGの3年間に亘る御盡力に深甚なる敬意と感謝を表し、併せて今後2年間宜しくお願い申し上げます。

私は、理事に就任するに当たり、個人的には何か御縁を感じております。米山奨学生が日本での勉学を終え、学友として、それぞれの母国で多方面にわたりリーダーとして活躍されている事はロータリアンの皆様もよく御存知と思います。そもそも本奨学会の使命は『将来、日本と世界とを結ぶ“懸橋”となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成する。それはロータリーの目指す“平和と国際理解の推進”そのもの』となっております。その“懸橋”の御一人、ヴェトナム・ハノイで活躍されているフィン・ムイ先生（69才）と私のエピソードを紹介いたします。彼は1962～77年、15年の長きに亘り日本に滞在、その間、1973～74年、米山奨学生（東京品川中央R

C）、東京大学数学科博士号取得、その後帰国してハノイ大学教授、ヴェトナムで初の私立大学であるタンロン大学を創立。（タンロンはハノイの古名）。更にタンロン技術学院も設立し院長就任、若い学生達の専門的職業教育に携わっている御方です。私事で恐縮ですが昨年3月お彼岸の頃、私は、昭和15年（1940年）9月23日ハノイの北方の国境の町ドンダンで戦死した長兄の慰霊に次女を伴い出掛けることになりました。出発に当たり、米山記念奨学会 坂下博康事務局長から紹介を戴き訪問の意図をフィン・ムイ先生に伝えたところ、快諾の上、それ以来親身に優る有難いお世話を戴くことになりました。

長兄は72年前、昭和15年、日本軍佛印進駐作戦中、ドンダンで21才の若さで戦死しました。事前に幾度かのメール交信、資料交換の後、約束の3月20日、ホテルから戦死の古戦場まで奥様共々車で片道約180kmを同行、案内して戴きました。ハノイから北上するにつれ山岳地帯となり、周囲には峻立した岩山があちこちに現れ、峠道になりました。ムイ先生によればこの地形こそが過去何千年の間、度々の中国軍の侵入を防ぎヴェトナムを守ることが出来たとの事でした。

無事、滞りなく古戦場で慰霊をすませ、夜はハノイに戻り郷土料理を娘共々御馳走になり、歓談、先生の国境を越えた人間愛、心優しく高潔な御人柄にふれ感動した次第です。

さて、10月は米山月間です。『ロータリーの友』、『米山豆辞典』、『ハイライトよねやま』などで米山記念奨学



<フィン・ムイ先生 近影>